学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

2015年8月号
vol. 231

特集

特別対談
オンリーワン大学を目指して
～新教育研究棟とともに～

特別対談 オンリーワン大学を目指して

～新教育研究棟とともに～

学長 中西 憲司 × 副学長・医学教育センター長 鈴木 敬一郎 × 学生部長 島 正之 × 教務部長 若林 一郎

医学教育研究機関として４０年を超える歴史を歩んできた兵庫医科大学。教育研究施設の充実のため、今後の将来像を描く「西宮キャンパスグランドデザイン」(平成２３年度策定)に基づいた新教育研究棟の建設準備工事が始まりました。その着工にあたり、新教育研究棟の完成像と兵庫医科大学の未来について、中西学長をはじめ3名の先生方にお話を伺いました。

兵庫医科大学が抱える課題

中西学長：関西屈指の文教都市、西宮市に本学が誕生して４３年。現在のような確固たる地位を築くことができたのは、ひとえに先人たちの努力の賜物と深く感謝しています。医師国家試験では、本学教職員の努力の甲斐あって、平成２１年と２４年に新卒合格率１００％、２６年と２７年には９８％強と素晴らしい成果を上げ、トップレベル合格校という称号を得ることができています。昨年度の入試からは、研究医枠による２名の学生定員の増員が認められ、これも研究実績と研究体制が高い評価を得ている結果と理解しています。

２０年前、我々は阪神・淡路大震災を経験しました。それを教訓として、急性医療総合センターが建設され、いまや地域の安心・安全を提供する重要な役割を担っています。教育面でも医療面でも、本学は躍進を続けてきたわけですが、現状ではさまざまな課題があることも事実です。まずは、我々が抱えている課題について、本学での教育に深く関わる皆さんの考えをお聞かせください。また、着任時の本学の印象もお聞かせください。

鈴木副学長：１５年ほど前、私が本学に赴任したときに感じたのは、学生さんが非常に優しく、自由で、良い雰囲気だな、ということでした。その一方で、やや遠慮がちで控えめな面があり、高い能力を十分に出し切れていないようにも感じました。

島学生部長：私は平成１６年に兵庫医科大学に赴任しましたが、同じようなことを感じました。単科大学なので、学生同士や、学生と教員との距離が近い点は良いのですが、もっと社会に目を向けて積極的に行動するようなところもあっていいと思います。

若林教務部長：私は４年前から教務部長を務めていますが、これまで医学教育センターや教務委員会のご努力で学生の学力が底上げされ、その成果が国家試験の合格率向上に現れてきました。これからは、兵庫医科大学の将来を担う幹部となる優秀な人材の育成に力を注ぐ必要があり、そういう意味では本学の教育は新しいステップに入りつつあると考えています。

学長 中西 憲司
昭和５９年に兵庫医科大学内科学第３講座助手として着任。その後、免疫学・医動物学講座で研究・教育に専念。学生部長などを経て、平成２２年に第９代学長に就任。

中西学長：１月１７日、阪神・淡路大震災の犠牲者追悼式に参加しました。当時のことを思い出すにつけ、元気な兵庫医科大学に戻って本当に良かったとあらためて思ったのですが、同時に、この元気なときに考えなければいけないことがあると決意を新たにしました。本学は３年前に４０周年を迎え、建物の老朽化や耐震性の問題を抱えています。万が一、もう一度、阪神・淡路大震災レベルの地震が来たら、現在の建物では耐えられない可能性があります。また、講義室や実習室もかなり老朽化しています。大きな夢を持って世界に羽ばたこうとしている学生たちが、うす暗い廊下の長いすでお昼にパンを食べている姿を見ると、申し訳ない気持ちにもなります。

鈴木副学長：教育環境という点では、１・２年生は３号館、３・４年生は９号館が中心というように教育の場が分かれてしまっていますし、医学教育センターは２号館、図書館は５号館、食堂は学生会館と施設も分散していて、学生にとってはとても不便だと思います。

若林教務部長：自習室が少ないので、試験前になると、自習室の順番を取るために教務学生課の前に大勢の学生が並んでいる光景が見られますね。

島学生部長：食事をする場所さえ十分とはいえません。医学部のカリキュラムは非常に過密ですから、ゆっくり食事をして、休み時間にはしっかりとリフレッシュできるような環境を整えてあげたいですね。

副学長・医学教育センター長
生化学 主任教授
鈴木 敬一郎
平成１１年に生化学講座に着任。平成１３年に教務部長、平成１７年に医学教育センター長に就任。平成２３年４月に副学長(教育担当)に就任。

学生・教職員・卒業生の誇りとなる新教育研究棟を目指して

中西学長：そのような課題や、学生たちへの想いがある中で、今回、新教育研究棟建設の計画が進んでいます。コンセプトは『安心・安全・快適』。これが本学の学生が誇りとする新教育研究棟です。地上１２階建てで、震度６強の地震にも耐えられる耐震構造を有し、さらに５ｍの大津波にも耐えられるようになっています。快適という意味でも、教育・研究に関する施設が１カ所に集約されるので非常に使いやすく、勉学に打ち込む時間、友達と語らう時間、あるいはクラブ活動など充実した時間を過ごせる、新しく生まれ変わった兵庫医科大学になるのではないかと期待しています。では先生方、新教育研究棟のそれぞれのパートの責任者として、この建物の特徴などについてご説明いただけますか？

若林教務部長：講義室は、３００人を収容できる大講義室をはじめ、中講義室や小講義室も含めると数に余裕ができますので、さまざまな不便が解消され、講義室を他の目的に利用することも考えられるようになります。それから、情報通信環境についても本格的に整備します。臨床実習直前に行われる重要な試験である共用試験のCBT（Computer Based Testing）を、今は5号館屋上階の簡素な情報施設で行っています。他学から来られたモニター委員の先生からは試験の運用面ではいつもお褒めいただいていますが、施設上は課題が多いのが実情です。情報施設を整備し、試験のないときには情報実習室を学生の自習にも使えるようにしていく予定です。

それから、自習室につきましては、６年生全員を収容できる数の６人部屋の個室を最上階の１２階に設置します。最上階には自習室しか入っておらず、国家試験を控えた学生が静かに勉強できる環境になると期待しています。

鈴木副学長：実習室は、講義室ほど稼働率が高くありませんが、多様な実習を行えるものでないといけません。効率的に運用できるよう、現状より面積を縮小しながらも、可動式間仕切りなどを導入して、非常に高い機能を持った実習室を目指しています。今後、実習内容が大きく変化することも予想されますので、そのような変化にも十分対応できるような設備にしたいと考えています。

また、新教育研究棟の３階には「ラーニングスクエア」を整備します。仕切りのないオープンスペースで、可動式の机や電子黒板を準備して、学生たちが個人の自主学習やグループ学習に使用できるようにします。このような素晴らしい空間が夕方５時以降にしか使われないのではもったいないので、カリキュラムに時間的な余裕を持たせるなどして、学生がこの空間を活用してより自発的な学習に取り組む環境と雰囲気を作りたいと考えています。習熟度やニーズに応じてスモールグループに分かれて教育を行うなど、いろいろと考えていきたいですね。

中西学長：海外には、そのような教育を行っている大学も多いですから、見習っていきたいですね。

鈴木副学長：習熟度や学生のニーズに応じた少人数教育には、教員の負担が大きくなるという面もあるのですが、そこは医学教育センターの専任教員によってフォローできる体制を整えます。それから、ICT（情報通信技術）化を進めることでも、教員の負担を減らせます。例えば、すでにチーム基盤型学習で始めているように、タブレット端末を利用すると小テストなどの採点の必要がなく、成績もその場で出ます。ICTの本格的な導入によって、スモールグループでの学習や習熟度別学習で、学生に能動的な学習を促していけたらと思います。

教務部長・
環境予防医学 主任教授
若林 一郎
昭和５７年兵庫医科大学卒業。第二内科、衛生学に勤務の後、山形大学医学部へ。平成１８年兵庫医科大学に復帰し、平成２３年４月教務部長に就任。趣味は音楽、読書、将棋。

すでに「ムードル」というe-learningプラットフォームなどを使って、「練習問題の答えはネットに掲載しています」といったオンラインでの学習管理が始まっていますが、新教育研究棟では情報通信環境が格段に向上するので、パソコンや携帯端末で自由にネットにアクセスして学んだり、成績や授業に関する伝達事項などを携帯端末で確認したりでき、非常に便利になるだろうと思います。

中西学長：島先生には、さきほど、学生のアメニティについてご指摘いただきましたが、新教育研究棟の建設で、学生の生活の質はどのように変わるとお考えですか？

島学生部長：新教育研究棟の６階には、学生ラウンジや学生食堂、売店、書店などのアメニティ施設が集約され、学生のためのスペースが現状よりずっと大きくなります。学生食堂については、天気がいいときは六甲山が見えるテラスで食事をすることもでき、席数も多くメニューも充実したものになると期待されます。できれば朝食を提供したり、営業時間を長くして、そこでコーヒーを飲みながら語り合ったり、勉強したりできればいいですね。また、学生ラウンジにも十分なスペースがあるので、魅力のあるお弁当などが販売されれば、ラウンジで食事をとることもできると思います。

若林教務部長：学生食堂や学生ラウンジ、あるいはラーニングスクエアや図書館など、自習ができる場所がたくさん用意されているのは素晴らしいことですね。最近の学生はグループで勉強する機会が多く、さまざまなスタイルの自習室で勉強ができるので、学習環境が一変するのではないでしょうか。

中西学長：確かにそうですね。それから、私が特に素晴らしいと思っていることの一つが、我々教員と学生が同じ建物の中にいるということなんです。上手にオフィスアワーを作れば、学生にとっては質問などもしやすくなるのではと期待しています。

若林教務部長：そうですね。毎日顔を合わせて、学生の表情を見ることができるのは、教職員にとって非常に大きなメリットだと思います。教員と学生の距離もさらに近くなるでしょうし、基礎系の科目に興味のある学生が、１・２年生の頃から教室に出入りしてもらいやすくなるかもしれません。

学生部長・
公衆衛生学 主任教授
島 正之
平成１６年７月公衆衛生学教授として着任。大気汚染の健康影響に関する研究や、子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）を担当。平成２５年４月に学生部長に就任。趣味は映画鑑賞やスポーツ観戦。

中西学長：
セキュリティ面はいかがでしょうか？

島学生部長：現在は、学生がいる建物がいくつかに分散していて出入りも自由ですから、学外者・不審者が入りこむことも不可能ではありません。新教育研究棟は入口が２階の玄関に限定され、入館時にチェックできるので、セキュリティは格段に向上します。

兵庫医科大学の歴史を紹介するアーカイブズを設置

中西学長：今回の新教育研究棟では、大学の歴史や原点を再確認できるアーカイブズも充実させたいと考えています。本学の卒業生である若林先生、アーカイブズにかける想いなどがあれば聞かせてください。

若林教務部長：創立者の森村先生あっての兵庫医科大学ですから、その原点をきちんと記念するということは、教職員にとっても学生にとっても、非常に大切なことだと思います。卒業生としても、大学に自分たちの足跡と呼べるものが残っていればうれしいはずです。アーカイブズを充実させて、母校愛を育んでいただけるスペースにしてほしいと思います。現在、展示する品をいろいろと集めていますが、どんな懐かしいものが集まるかも楽しみですね。

中西学長：この記事を読んでくださっている卒業生や先生方には、兵庫医科大学の歴史を語る品があれば、ぜひ、ご提供いただければと思います。１期生の入学許可書や学位記、あるいは医師国家試験の合格証書などがあるとうれしいですね。名物先生の授業ノートもいいかもしれません。ご協力いただければと思います。

未来へ躍進する兵庫医科大学のために

中西学長：兵庫医科大学に来られた方によく言われるのが「どこが門か分からなかった」ということです。建物の配置が分かりにくいんですね。兵庫医科大学にはシンボリックな建物や施設がないからかもしれません。

鈴木副学長：確かに現在は、兵庫医科大学の思い出として真っ先に思い浮かべるような建物や場所はないですね。新教育研究棟には教育に関するすべてのものが集約されるので、学生にとってシンボルと呼べる建物になってほしいと思います。

中西学長：本学の建学の精神である「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」、いずれの心を育むにも、心の余裕を持つこと、美しいものを見て感動することが必要です。豊かな発想力や優しさを持った素晴らしい医療人を育成するため、もっと豊かな環境で学生たちに勉強させてあげたい。今回、４０年を経過した教育棟や実習棟、研究棟を集約し、快適で使いやすい、そしてもちろん安心・安全な、兵庫医科大学の学生が自分の母校として誇りにできるような建物の建設を、ぜひ実現させたいと思っています。

鈴木副学長：医師国家試験の成績ももちろん大事ですが、兵庫医科大学の学生には、医師として自信と誇りを持って生きていけるような医学教育をしたいと思います。新教育研究棟が、それを後押ししてくれる存在になるといいですね。

島学生部長：医学部の現在のカリキュラムは非常に過密で、学生たちが自由に過ごす時間はどうしても限られてしまいます。新教育研究棟ができることで、学生たちが学生生活をエンジョイでき、豊かな心を持ってくれることを願っています。

若林教務部長：兵庫医科大学の学生の学力が向上し、教育の方針なども変わりつつあります。そういうタイミングで新教育研究棟ができるというのは、兵庫医科大学が飛躍的に伸びる一つの大きなきっかけになるのではないかと期待しています。

中西学長：大学の顔となる新教育研究棟は、学生・教職員・卒業生を含め兵庫医科大学に関わるすべての人が誇れる建物にしたいと思います。また、卒業生たちを結びつける原点の建物にもなります。建設はまだこれからですし、経済的に非常に厳しい部分もありますが、素晴らしい教育研究棟を作るというのは大学としての悲願でもあります。これを読んでいただいた皆さまにも、この新教育研究棟がこれからの５０年間、本学の顔となってくれるように、計画実現のためぜひとも、ご協力・お力添えをいただけますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

今後の５０年を見据えたとき、この新教育研究棟の建設が、本学が未来へ躍進する契機としたいと思っております。

6階学生ラウンジ

■建物名称：新教育研究棟（仮称）
■階　　数：12 階建て、地階なし
■建物場所：兵庫県西宮市武庫川町１番１号
■建物高さ：54.2m
■建築面積：4,581.51 ㎡
■延床面積：31,099.79 ㎡
■開設予定：平成 29 年度（予定）
■構　　造：S 造、一部 RC 造

3階ラーニングスクエア

学校法人 兵庫医科大学
広報
vol.231/2015年8月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX － 目次 －

特集 …1

特別対談
オンリーワン大学を目指して
～新教育研究棟とともに～

Campus News …7
- “奉仕”の精神を磨くため「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施
- 第１回市民健康フォーラム「健診からはじめる がん･生活習慣病予防」開催
- 「薬剤師への道」イベントを開催
- 「看護職への道」イベントを開催
- 生活習慣病の予防のために一日「まちの保健室」を開催
- ささやま老人保健施設で運動会を開催
- 中医薬孔子学院「第3回学術シンポジウム」を開催
- 学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会 開催
- 第15回地域医療懇談会を開催
- ワシントン大学の交換留学生受け入れ
- 慰霊顕彰碑の移設が行われました
- 平成２６年度決算について

The Professional ザ・プロフェッショナル …13
創薬の最前線に立つ ～新薬開発への取り組み～
兵庫医療大学 薬学部（創薬化学）教授 田中 明人

気になる授業 …14
兵庫医科大学「症候病態TBL（Ⅰ）」
兵庫医療大学「成人看護技術演習」輸液管理

チームの力 …15
学校法人 兵庫医科大学のチーム医療とは
「患者さんとともに考える」を学ぶ臨床倫理ワークショップを開催

CLUB 課外活動紹介 …16
兵庫医科大学「ボランティア部 WITH YOU」
兵庫医療大学「スポーツ大会」

就任関連／人事情報 …17

表彰および受賞紹介 …19

開学40周年記念事業募金／兵医・萌えの会 状況報告 …20

平成27年度 科学研究費助成事業交付内定一覧ほか …21

知ってる？兵庫医科大学 …22
兵庫医科大学創立者 森村茂樹先生 生誕１００年

報道機関への出演・掲載 …23

Campus News

医科大 “奉仕”の精神を磨くため「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施

平成２７年６月１日～１２日の期間中、学生を中心にキャンパス周辺やクラブ活動で使用している施設周辺の「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施しました。

この取り組みは、建学の精神である「社会の福祉への奉仕」の精神を涵養するため、学生に活動参加を呼びかけたもので、有志２６５名、２９クラブが活動に参加しました。クラブごとに兵庫医科大学の西宮キャンパス周辺や、グラウンドやテニスコー

トなどの課外活動施設周辺の公道や溝などを中心に、ポイ捨てされたタバコの吸殻などのゴミを拾いました。

これまでも、一部の学生が自発的にゴミ拾いをすることはありましたが、全学的に参加を呼びかけ、一斉に活動するのは今回が初の試みです。学生たちは想像以上にゴミが捨てられていることに驚きながらも、茂みの中や排水溝にも目を光らせて、多くのゴミを拾っていました。

兵庫医科大学では従来から敷地内を全面禁煙としており、平成２６年１０月には「禁煙宣言」を掲げ、禁煙活動を推進しています。全学を挙げて禁煙を推進するため、中西学長はもちろんのこと、難波病院長も禁煙週間中のタバコの吸殻・ゴミ拾いに参加し、禁煙の啓発活動を行いました。

学生・教職員に対する禁煙啓発活動、および学生のボランティア精神を育む奉仕活動として、禁煙週間が終了した後も「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を継続していきます。

大学病院 第１回市民健康フォーラム「健診からはじめる がん・生活習慣病予防」開催

平成２７年６月２０日、西宮市プレラホールにて第１回市民健康フォーラム「健診からはじめる がん・生活習慣病予防」を開催しました。

このフォーラムは、広く地域の皆さまに、健康増進と疾病予防に努めていただくことを目的として、院内で定期的に開催している「市民健康講座」に加えて開催しました。

当日は、１９４名の参加があり、メモを取りながら熱心に話に耳を傾ける参加者の姿も見られました。事前にご提出いただいた参加者からの質問に医師が答えるなど、市民の皆さんの「健康」に対する理解を深めていただきました。

◆ 講演１
「胃がんになる人・ならない人」
～ならないためにどうするか？なってしまったらどうするか？～
講師　消化管内科 **渡 二郎** 教授

◆ 講演２
「受けましょう 乳がん検診」
講師　乳腺・内分泌外科 **三好 康雄** 教授

◆ 講演３
「生活習慣病・健康医学クリニックのご紹介」
講師　健康医学クリニック **山本 徹也** 院長

医療大 「薬剤師への道」イベントを開催

平成２７年６月７日、兵庫医療大学薬学部と兵庫医科大学病院薬剤部との合同イベント「薬剤師への道」を開催し、４２名の高校生に参加いただきました。

６回目となる今回も昨年に引き続き、午前中は兵庫医科大学病院、午後からは兵庫医療大学に移動してのプログラムとなりました。

第１部の「薬剤師の仕事について知ろう」では、現在兵庫医科大学病院で薬剤師として働く兵庫医療大学の卒業生が、恩師でもある薬学部の青木俊二教授と一緒に、薬剤師の１日の業務などをわかりやすく説明しました。

第２部の「大学病院薬剤部の職場見学」では、現役薬剤師の案内により、今年移設したばかりの薬剤部内を見学し、調剤方法や機器の使用方法などの説明を受けました。

参加者全員が兵庫医療大学へバスで移動して行われた第３部では、体験講義と体験実習を通して、大学での学びを体感しました。

体験講義では、薬学部での学びや、各

研究室での研究内容説明、卒業後の進路についての講義が行われました。また、

体験実習では、臨床薬学研修センターにて「漢方茶作り」「分包体験」「軟膏作り体験」を行いました。参加者は、一足先に薬剤師気分を体感できたのではないでしょうか。

参加者の感想

薬剤師さんから直接話を聞くことができ、また大学病院の薬剤部の見学ができたりと、とても充実していました。兵庫医療大学では調剤の学び体験もでき、楽しかったです。

医療大 「看護職への道」イベントを開催

平成２７年６月１４日、看護職を志望する高校生（受験生）を対象としたイベント「看護職への道」を開催しました。

兵庫医療大学で取得可能な“看護師”“保健師”“助産師”の明確なキャリア像をつかみ、看護専門職になるまでの大学・看護学部における学びを知って体感していただくこのイベントは、昨年に引き続き行われ、当日は１４４人の高校生と多くの保護者に参加いただきました。

１０時から始まったプログラムでは、在学生による学部紹介や本学看護学部新井信之教授による体験講義、在学生による国際看護への取り組み紹介、兵庫医科大学病院看護部からの病院・教育制度の紹介、卒業生によるパネルトークを実施し、１５時３０分に終了しました。参加者には、看護職について、将来に対するより明確なイ

メージを持ってもらえたのではないでしょうか。

参加者の感想

卒業生からとてもリアルなお話を聞くことができたので、より将来の夢がはっきりしました。このイベントに参加できて、受験に向けてのモチベーションがとても向上しました。

大学病院 生活習慣病の予防のために 一日「まちの保健室」を開催

５月１２日はナイチンゲール誕生の日で「看護の日」と呼ばれています。兵庫医科大学病院では、看護の日を記念し、地域の皆さんに日常生活を振り返っていただく機会として、一日「まちの保健室」を平成２７年５月３０日に１号館１階玄関ロビーにて開催しました。

当日は約８０名の方にお越しいただき、体組成や、血管年齢、骨密度の測定、禁煙指導、乳がんの触診体験などにご参加いただきました。測定結果を基に、看護師が結果の説明と生活指導を行い、生活習慣病の予防について啓発しました。

また、兵庫医科大学病院の「看護のこころ」を皆さんにお伝えするため、５月９日～３０日の間３階渡り廊下および１階玄関にて、『私たちの“キラリ活動”』パネル展示も行い、日常の看護業務の様子や、患者さんに対する“思い”を届けました。

ささやま ささやま老人保健施設で運動会を開催

平成２７年６月３日、ささやま老人保健施設２階フロアにて、利用者の方々約７０名が集まり運動会を行いました。

職員も参加してのラジオ体操から始まり、紅白に分かれての玉入れでは、目を輝かせて玉を投げ入れたり、車椅子リレーではいつもの車椅子さばきより見事な操作でズンズン進まれていました。篠山中学校のトライやるウィークの生徒の皆さんも一緒に参加し、にぎやかな時間を楽しみました。

特に、日ごろの発声練習の成果が出た選手宣誓には大きな拍手が沸き、職員も普段は見られない表情を目の当たりにでき、楽しい時間を過ごしました。梅雨を吹き飛ばすような楽しいひとときが送れ、職員たちも利用者の皆さんから元気をいただきました。

学校法人 中医薬孔子学院「第３回学術シンポジウム」を開催

平成２７年５月１５日、兵庫医療大学オクタホールにて、中医薬孔子学院「第３回学術シンポジウム」を開催しました。当日は教職員、医療大薬学部３年生、一般の聴講者の方を含め約２５０名が参加し、「東西医学の融合」についての講演および「薬学教育・研究および医療現場における東洋医薬の現状と将来展望」についてのシンポジウムに耳を傾けました。

翌１６日には、兵庫医科大学総合研修棟にて市民健康講座を開催し、「睡眠の養生（健康法）」「脊柱の養生と治療法について」と題し、北京中医薬大学の李副学部長、付主任教授にご講演いただきました。

講演「東西医学の融合」
座長：野口 光一（学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院 学院長）
講演：白木 公康（富山大学医学部医学科 教授）、王 偉（北京中医薬大学 副学長）

シンポジウム「薬学教育・研究および医療現場における東洋医薬の現状と将来展望」
座長：西山信好（兵庫医療大学薬学部 学部長）
シンポジスト：倪 健（北京中医薬大学中薬学部 副学部長）
戴 毅（兵庫医療大学薬学部 教授）
笠原 良二（株式会社ツムラ 医薬営業本部流通戦略特販課 課長）
樋口 和子（漢方専門 みくに薬局 薬剤師）

学術シンポジウム

市民健康講座

医療大 学校法人兵庫医科大学 連携病院の会 合同病院説明会を開催

平成２７年４月２５日、全学部の在学生を対象とした「学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会」を体育館アリーナにて開催しました。本会は、今後明確な目標をもって勉学や就職活動等に取り組むために、毎年就職サポートの一環として行っているものです。

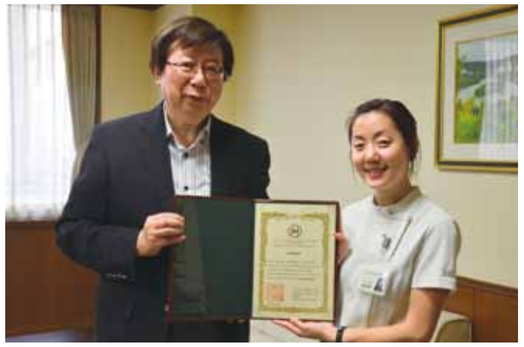
当日は、薬学部６０名、看護学部１６０名、リハビリテーション学部理学療法学科８９名、作業療法学科７４名の計３８３名の学生が参加し、５１の医療機関等から１８２名のご担当者に説明を行っていただきました。参加した学生はそれぞれのブースで熱心に説明を聞き、積極的に質問していました。

学生からは「病院ごとに特色が異なり、自分が何を学びたいかを考え直すよい機会になりました」などの感想がありました。

医科大 ワシントン大学の交換留学生受け入れ

平成２７年６月２２日から７月１０日の３週間、ワシントン大学からの交換留学生１名を受け入れました。兵庫医科大学からは５月４日から５月２９日の間、６年生１名がワシントン大学へ留学しており、ワシントン大学でさまざまな実習を行いました。

今回受け入れたAlisha Wangさんは、小児科での実習を通じて日本の医療を学び、学生達とも大いに交流を深めました。



大学病院 第１５回 地域医療懇談会を開催

平成２７年６月６日、ノボテル甲子園において第１５回地域医療懇談会を開催しました。近隣の各医師会から２７名、地域医療機関の方１００名、院内関係者５５名の計１８２名の参加があり、盛会に行われました。地域の拠点病院としての兵庫医科大学病院の取り組みなどについて講演し、また、懇親会を通じて各医療機関の皆さまと連携を深めました。

【講演】座長 地域医療・総合相談センター長 西 信一

今日の前立腺がん診療	泌尿器科 兼松 弘 准教授
胃癌診療のＡＢＣ －内科医の立場から－	消化管内科 渡 二郎 教授
ここまで進んだ乳がん治療	乳腺・内分泌外科 三好 康雄 教授
健康医学クリニックの概要	健康医学クリニック 山本 徹也 院長

医科大 慰霊顕彰碑の移設が行われました

新教育研究棟（仮称）の工事開始を前に、医学教育・研究のためにその身を捧げられた方々に感謝をささげるために建立された慰霊顕彰碑が、５号館前広場から平成記念会館アーチェリー場横に移設されました。

平成２７年５月２２日に移設法要が行われ、解剖学神経科学部門の野口主任教授、解剖学細胞生物部門の八木主任教授をはじめとして１２名が出席し、慰霊顕彰碑に花を手向けました。

平成２６年度決算について

平成２６年度は、事業計画との整合性を保ちつつ、兵庫医科大学、兵庫医療大学の教育・研究の充実、病院診療体制充実の目標に加え、西宮キャンパスグランドデザイン実施に向け、学校法人全体の持続的投資を可能とする適正な収支差額を確保した予算編成とすることを基本方針としました。既存予算の見直しと効率化等により財源の捻出を図ることで、

①西宮キャンパスグランドデザイン等の各種計画を着実に実行できる財務基盤の確立
②兵庫医科大学開学４０周年記念事業の遂行（新教育研究棟の建設始動）
③新健診センターの新規開設
④兵庫医療大学全学部完成後の徹底した評価、自己点検の実施とそれに基づくさらなる教育・研究の適正化、運営の効率化の推進
⑤ささやま医療センターの抜本的経営改善策策定と施策の着実な実行

という重点事項が掲げられ、当初予算がスタートしました。こうした中で、法人が今後計画している諸事業を実行していくためには、帰属収支差額を１０億円以上維持することが不可欠という従来からの考え方のもと、最終的に帰属収支差額１０．１億円の予算案を決定しました。

このような方針の下、今年度、西宮本院では、入院の患者数、診療単価、稼働率および手術件数が増加したものの、医療材料費、業務委託費、減価償却費等の経費増加の影響を受け、前年度比収支差額は３．１億円の増にとどまり予算未達となりました。また、ささやま医療センターは、ようやく再生に向けた取り組みに明確な方向性が見られたものの、赤字基調は続き、予算比２．２億円のマイナスとなりました。その結果、人件費を予算対比抑制すること、資産運用収入の増加策を実施したこと、および資産処分が次年度に繰越されたこともあり、決算は帰属収支差額が１０．５億円のプラスと何とか予算目標を達成することができました。

消費収支計算書　平成２６年４月１日から平成２７年３月３１日まで

（単位：円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金	7,665,025,000	7,563,481,600	101,543,400
手数料	277,537,000	284,327,620	△ 6,790,620
寄付金	999,194,000	919,433,617	79,760,383
補助金	2,826,065,000	2,666,026,370	160,038,630
国庫補助金	2,533,385,000	2,385,962,000	147,423,000
地方公共団体補助金	292,680,000	280,064,370	12,615,630
資産運用収入	171,633,000	476,884,260	△ 305,251,260
資産売却差額	0	0	0
事業収入	37,171,033,000	36,408,527,150	762,505,850
事業収入	1,333,886,000	1,691,392,593	△ 357,506,593
医療収入	35,837,147,000	34,717,134,557	1,120,012,443
雑収入	549,088,000	543,037,346	6,050,654
帰属収入合計	49,659,575,000	48,861,717,963	797,857,037
基本金組入額合計	△ 3,433,092,000	△ 3,511,461,971	78,369,971
消費収入の部合計	46,226,483,000	45,350,255,992	876,227,008

（単位：円）

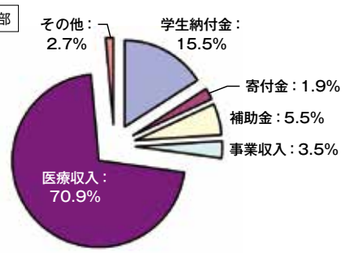
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	22,335,935,000	22,277,863,444	58,071,556
教職員等人件費	21,553,935,000	21,386,963,776	166,971,224
退職給与引当金繰入額	656,444,000	828,632,908	△ 172,188,908
退職金	125,556,000	62,266,760	63,289,240
教育研究経費	4,874,037,000	4,753,024,577	121,012,423
医療経費	18,879,637,000	18,749,333,517	130,303,483
管理経費	1,724,511,000	1,757,939,810	△ 33,428,810
借入金等利息	78,495,000	75,849,300	2,645,700
資産処分差額	325,520,000	190,889,702	134,630,298
徴収不能額	13,928,000	2,054,800	11,873,200
徴収不能引当金繰入額	15,936,000	1,995,267	13,940,733
［　予　備　費　］	400,000,000		400,000,000
消費支出の部合計	48,647,999,000	47,808,950,417	839,048,583
当年度消費収入超過額			
当年度消費支出超過額	2,421,516,000	2,458,694,425	
前年度繰越消費支出超過額	37,567,545,897	37,567,545,897	
翌年度繰越消費支出超過額	39,989,061,897	40,026,240,322	

収入面で、学生納付金は、兵庫医療大学が完成年度を過ぎ、法人全体の学生数が横ばい状態になったこともあり全体で７５．６億円と、対前年度比微増でした。医療収入に関しては、本院では１４．３億円増加し、ささやま医療センターも入院患者数の増加により２．８億円増加しました。その結果、医療収入全体は３４７．２億円で前年度比１６．７億円の増です。その他としては、寄付金収入は９．２億円、補助金収入は２６．７億円とそれぞれ減少しましたが、資産運用収入が４．８億円と前年度比３．１億円増加したこともあり、帰属収入全体では４８８．６億円でした。

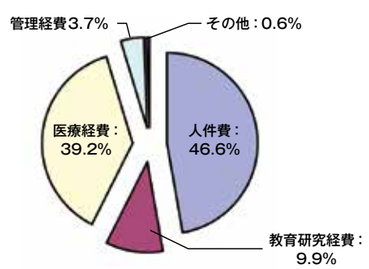
支出面では、人件費が２２２．８億円、教育研究経費が４７．５億円、薬品費、医療材料費等の医療経費が１８７．５億円等で、消費支出合計は、４７８．１億円となり、帰属収入から消費支出を差し引く帰属収支差額は、１０．５億円でした。また、帰属収入から控除する基本金組入額は３５．１億円で、その結果、消費収入の部合計では４５３．５億円となり、消費収支差額が２４．６億円の消費支出超過となりました。

平成２６年度決算構成比率

帰属収入の部



消費支出の部



資金収支計算書　平成２６年４月１日から平成２７年３月３１日まで

（単位：円）

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	7,665,025,000	7,563,481,600	101,543,400
手数料収入	277,537,000	284,327,620	△ 6,790,620
寄付金収入	952,194,000	843,913,133	108,280,867
補助金収入	2,826,065,000	2,666,026,370	160,038,630
国庫補助金収入	2,533,385,000	2,385,962,000	147,423,000
地方公共団体補助金収入	292,680,000	280,064,370	12,615,630
資産運用収入	171,633,000	476,884,260	△ 305,251,260
資産売却収入	1,500,000,000	4,500,000,000	△ 3,000,000,000
事業収入	37,171,033,000	36,408,527,150	762,505,850
事業収入	1,333,886,000	1,691,392,593	△ 357,506,593
医療収入	35,837,147,000	34,717,134,557	1,120,012,443
雑収入	549,088,000	520,783,300	28,304,700
借入金等収入	149,683,000	118,656,411	31,026,589
前受金収入	1,121,530,600	1,124,676,083	△ 3,145,483
その他の収入	6,635,367,494	6,932,856,589	△ 297,489,095
資金収入調整勘定	△ 7,344,721,732	△ 8,055,496,048	710,774,316
前年度繰越支払資金	9,767,436,959	9,767,436,959	0
収入の部合計	61,441,871,321	63,152,073,427	△ 1,710,202,106

（単位：円）

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	22,356,193,000	22,181,170,776	175,022,224
教職員等人件費支出	21,553,935,000	21,386,963,776	166,971,224
退職金支出	802,258,000	794,207,000	8,051,000
教育研究経費支出	3,635,752,000	3,381,676,896	254,075,104
医療経費支出	16,155,099,000	16,009,068,490	146,030,510
管理経費支出	1,645,045,000	1,680,247,512	△ 35,202,512
借入金等利息支出	78,495,000	75,849,300	2,645,700
借入金等返済支出	2,200,223,000	2,163,322,973	36,900,027
施設関係支出	3,083,037,000	2,076,012,272	1,007,024,728
設備関係支出	1,322,823,000	1,174,791,955	148,031,045
資産運用支出	1,000,000,000	4,600,000,000	△ 3,600,000,000
その他の支出	6,376,534,906	6,297,355,802	79,179,104
［　予　備　費　］	400,000,000		400,000,000
資金支出調整勘定	△ 4,829,593,389	△ 5,917,798,231	1,088,204,842
次年度繰越支払資金	8,018,262,804	9,430,375,682	△ 1,412,112,878
支出の部合計	61,441,871,321	63,152,073,427	△ 1,710,202,106

資金収支計算書については、前年度より繰り越した資金（現金預金）が９７．７億円でしたが、次年度への繰越資金は、９４．３億円となりました。これは新教育研究棟建設に伴う資金需要と当面の借入金額の圧縮に対応しながら、キャッシュフローの観点で施策を実施したことによるものです。

貸借対照表　平成２７年３月３１日

（単位：円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	60,834,717,425	61,619,742,816	△ 785,025,391
有形固定資産	57,983,787,769	59,018,696,385	△ 1,034,908,616
土地	15,765,231,332	15,765,231,332	0
建物・構築物	30,962,709,111	31,001,561,945	△ 38,852,834
教育研究用機器備品	9,890,132,862	10,861,884,319	△ 971,751,457
図書	833,198,660	889,868,252	△ 56,669,592
建設仮勘定	127,029,600	138,285,000	△ 11,255,400
その他	405,486,204	361,865,537	43,620,667
その他の固定資産	2,850,929,656	2,601,046,431	249,883,225
有価証券	0	0	0
教育施設設備等引当特定資産	199,818,000	199,818,000	0
退職給与引当特定資産	799,991,111	799,991,111	0
その他	1,851,120,545	1,601,237,320	249,883,225
流動資産	22,091,983,582	22,256,710,021	△ 164,726,439
現金預金	9,430,375,682	9,767,436,959	△ 337,061,277
有価証券	5,500,000,000	5,500,000,000	0
その他	7,161,607,900	6,989,273,062	172,334,838
資産の部合計	82,926,701,007	83,876,452,837	△ 949,751,830

（単位：円）

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	13,148,725,173	14,137,686,091	△ 988,960,918
長期借入金	5,849,110,000	6,894,190,000	△ 1,045,080,000
学校債	0	15,000,000	△ 15,000,000
退職給与引当金	6,499,560,398	6,402,867,730	96,692,668
長期未払金	800,054,775	825,628,361	△ 25,573,586
流動負債	8,515,485,194	9,529,043,652	△ 1,013,558,458
短期借入金	1,163,736,411	2,158,322,973	△ 994,586,562
学校債	25,000,000	15,000,000	10,000,000
前受金	1,124,676,083	1,143,367,332	△ 18,691,249
その他	6,202,072,700	6,212,353,347	△ 10,280,647
負債の部合計	21,664,210,367	23,666,729,743	△ 2,002,519,376

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	98,178,730,962	94,667,268,991	3,511,461,971
第4号基本金	3,110,000,000	3,110,000,000	0
基本金の部合計	101,288,730,962	97,777,268,991	3,511,461,971

消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	40,026,240,322	37,567,545,897	2,458,694,425
消費収支差額の部合計	△ 40,026,240,322	△ 37,567,545,897	△ 2,458,694,425
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	82,926,701,007	83,876,452,837	△ 949,751,830

※注記　減価償却額の累計額　48,861,873,870円
　　基本金未組入額　8,691,970,249円

資産のうち固定資産は、有形固定資産及びその他の固定資産合わせて６０８．３億円で、前年度対比７．９億円減です。これは、設備投資額を減価償却額以下に抑えたことが主な要因です。流動資産は、現金預金が９４．３億円、短期有価証券が５５億円等で、２２０．９億円です。

負債のうち固定負債は、新規の借入金が無かったことで返済が進み、退職給与引当金を含め１３１．５億円と前年度比９．９億円減となりました。流動負債は、短期借入金の減少要因で８５．１億円となり、総負債は、２１６．６億円です。

基本金は、当年度に３５．１億円の組入れ増加要因があり、基本金の部合計額は、１，０１２．９億円となりました。

※財産目録や財務比率等含めた事業報告書は、本法人の情報公開規程に従い、西宮キャンパス総務部総務課において、開示請求を受け付けております。